

化学産業が持続可能な開発に貢献していくために

「持続可能な開発」の概念は、1992年に行われた国連のリオサミットをきっかけに広く社会に認知されるようになり、2015年には、2030年における具体的なマイルストーンとして17のSDGs（持続可能な開発目標）が国連で採択され、多くの企業が取り組みを加速しているところです。

化学産業は、あらゆる産業の米として、様々な機能を持つ素材の提供を通じて産業全体のイノベーションを支えてきました。そうして生み出された製品は、環境や水の浄化、再生エネルギーの利用、省エネ・省資源、情報社会の発達、医療の進歩、食糧の安定供給、廃棄物の資源化などあらゆる分野で人々の生活の向上をもたらすと同時に、持続可能な開発の観点でも多大な貢献をしてきました。（参考図1参照）このような化学産業の貢献の多様性は他産業に見られない特長で、化学の無限の可能性を示すものであります。

他方、化学産業は過去の製造に伴う公害や環境汚染の問題の反省から環境と安全の問題に真摯に取り組む、1990年よりは世界的な化学業界の活動であるレスポンシブル・ケア（RC）活動を実践しています。レスポンシブル・ケア

は、現在では、世界60カ国以上の化学産業が参加する他の産業に類を見ないユニークな活動で、法令を遵守するだけでなく、化学製品が生まれてから消費・廃棄されるまでの全ての段階で、環境・健康・安全を確保し、その内容を近隣地域や消費者を含む全てのステークホルダーへ開示し、コミュニケーションを図る自主的な取り組みです。（参考図2参照）化学産業では、以前より企業の社会的責任（CSR）の中核的な活動として、このレスポンシブル・ケア活動を位置づけてきました。

日本化学工業協会では、日本の化学産業がSDGsの達成を目指して持続可能な開発に取り組むに当たり、各企業がイノベーションや事業の海外展開などの成長に向けた事業活動とRCやCSR等の社会的責任を担う基盤活動を経営として統合（参考図3参照）し、「あらゆる産業の先導役」として、SDGsに貢献するためのビジョンを策定いたしました。

今後、当協会では、このビジョンに基づき、会員企業におけるSDGsに達成に向けての活動を支援するとともに、ステークホルダーの皆様と対話を重ね、化学産業の持続可能な開発への貢献についてご理解をいただく所存です。

持続可能な開発に向けての化学産業のビジョン

日本の化学産業の強み

革新的な技術と製品
(Innovation)

環境等の問題解決力
(Solution)

強みを生かして進化

課題対応型産業 (Reactive) から産業の先導役 (Proactive) へ
責任 (Responsibility) から貢献 (Contribution) へ

ビジョン1 化学の力によりイノベーションを創出し、人々の豊かで健やかな生活に貢献します

- ① 提案解決型の産業としてバリューチェーン全体と連携し、持続可能な社会を実現するための素材や物質を通じたイノベーションを主導します。
- ② 政府や大学など、イノベーションを先導するステークホルダーとの連携を密にし、現在実現していない革新的なイノベーションや社会全体の変革（超スマート社会等）を伴うイノベーションの創出を目指します。
- ③ 自らの製造プロセスを絶え間なく改善することにとどまらず、究極の省エネルギー、省資源の達成と廃棄物ゼロプロセスを目指します。

ビジョン2 世界的な環境・安全問題への取り組みを支援します

- ① 日本の化学産業の経験を活かし、現地日系企業や現地協会への支援を通して、生産活動における環境・安全を守る取り組みを支援します。
- ② 新興国に対し、RCの考え方を普及させます。
- ③ 世界中に化学品の安全な管理に関する手法と化学品のリスクを伝え、化学製品が正しく使用され、人々の豊かな生活に貢献するように配慮します。

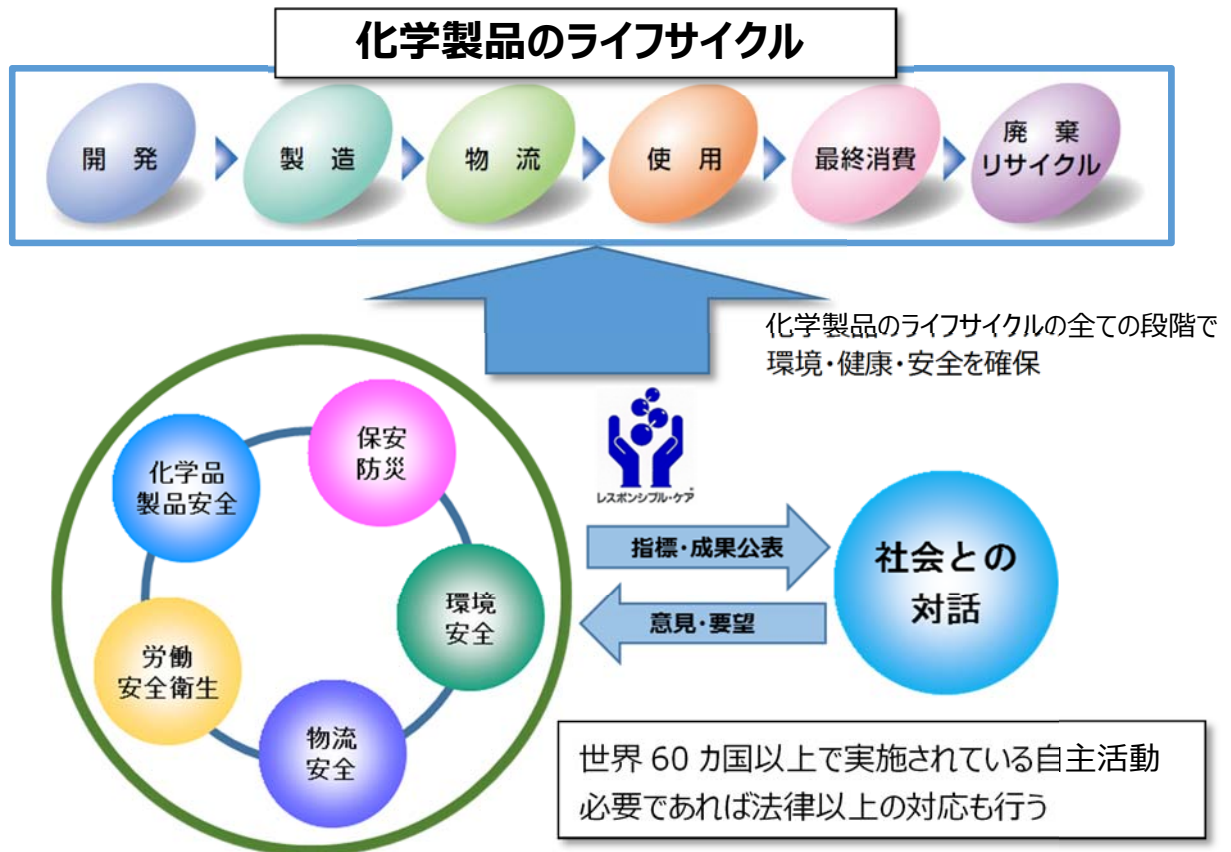
ビジョン3 ステークホルダーとの対話を通じて、化学産業による貢献を促進します

- ① 化学物質のリスク情報をバリューチェーン全体に正確に伝え、その正しい使い方を共有します。
- ② 環境保全や廃棄物低減等、持続可能性に配慮した製品の価値をステークホルダーと共有し、それに基づいた製品開発を行います。
- ③ 投資家等との対話を通じて、化学産業の持続可能な開発への貢献と将来の無限の可能性について理解を得ることにより、環境・社会・ガバナンスへの投資を促進します。

参考図 1 持続可能な開発に貢献する化学産業の技術・製品の例



参考図 2 レスポンシブル・ケア®活動の概念



経済的発展と成長

